

あんしん

みんなが笑顔で、
安心できる
「まち、暮らし」



「コミュニケーション支援ボード」を全店設置

2019年8月、コープ仁川(宝塚市)では聴覚に障害のある方、難聴の方へのレジ対応のため「コミュニケーション支援ボード」の設置を開始しました。使用する支援ボードは、宝塚ろうあ協会や地域ボランティア、店舗職員の意見をもとに作成。以後、改良を重ねながら2020年12月、全店舗での設置がスタートしました。新型コロナウイルスの影響で職員のマスク着用が必須になっている中、読唇術が使えずに困っている人たちが安心して買い物できるよう、店舗の環境づくりを進めています。

商品検査センターの取り組み

<https://kensa.coop-kobe.net>

コープこうべ商品検査センター

検索

1967年に検査活動をスタートした商品検査センターでは、商品の検査、店舗作業場の衛生状態を調べる調査、お申し出品の調査、科学的に正しい知識の普及に関すること、品質広報などの役割を担っています。同センターホームページでは、組合員からの商品に関する疑問への回答事例(540件)を「商品Q&A」として掲載。さらに、食の安全に関するさまざまな情報を掲載しています。



また、商品検査センター職員の検査技能の維持・強化を目的に、ISO規格(残留農薬分野)を取得し、試験所としての機能の向上に努めました。

2020年度実績

検査分野	検査項目	検査件数
微生物	一般生菌数、大腸菌(群)、黄色ブドウ球菌など	4,266
残留農薬	一斉分析約440農薬	297
動物用医薬品	抗生物質、合成抗菌剤	32
食品添加物	保存料、着色料、発色剤、漂白剤など	28
品質管理項目	ヒスタミン、油脂の酸価、過酸化作物価など	24
アレルゲン	食品工場生産品のアレルゲン(乳成分・小麦など)	32
重金属	米のカドミウム	43
放射性物質	セシウム134、セシウム137	103
異臭	お申し出品の石油臭、薬品臭などの原因物質	84
異物	お申し出品の異物(プラスチック・金属など)	1,169
合計		6,078

イベント名	開催件数 参加人数
学習会 職員学習会、食の安全学校など	8件 181人

※新型コロナウイルスの影響で、通常の組合員の見学は中止いたしました。



はかるたいせつプロジェクト 「第4回商品検査の日のつどい」開催

2020年10月、ひょうごまるごと健康チャレンジ2020キックオフイベントとして、はかるたいせつプロジェクト「第4回商品検査の日のつどい」を、ラジオ関西からの生放送&YouTube同時配信で開催しました。

「ウィズコロナ時代のリスクコミュニケーション」をテーマに中継拠点とのリポートを交えながら「食の安全クロスロードゲーム」を実施し、立場によってさまざまな考え方があったことや「量で考えることの大切さ」を考える機会となりました。

参加者から寄せられたメッセージに対し、ゲストの堀口逸子教授(東京理科大学)から、「安全は科学、安心は好き嫌いなど心の問題のため、切り離して考えること」や、「サプリメント(健康食品)はあくまで“食品”。つつい過剰摂取になりがちになるため、どれくらい摂ったかキチンと記録すること」などコメントいただきました。

人の意見を聞くこと(否定しない)、自分の意見が言えること、そして自分自身で考えることの大切さをあらためて認識できる1日となりました。



第4回商品検査の日のつどいの様子
詳しくは→



<https://hakarutaisetsu.kobe.coop>

はかるたいせつ

検索

防災、ローリングストックで 災害の備えを

「使って、補充して」を繰り返して食品や日用品をストックするローリングストック法。

地域の組合員を対象に学習会を開催し、災害知識の習得やポリ袋調理のレシピ提案、コープ商品を使ったローリングストックの推奨などを行っています。

さらに、各団体と協力して組合員のアイデアレシピを掲載したBOSAIレシピブックを発行するなど取り組みが広がっています。



学習用「ローリングストック商品とレシピブック」

忙しいママ&パパを応援 「CO・OPきらきらステップ」

コープオリジナルの離乳食、幼児食「CO・OPきらきらステップ」は子育てをするママ・パパを応援したいという想いから生まれました。「子どももうれ



しい。私もうれしい。「家族」がうれしい。」商品として、「離乳食期以降向け」「幼児食期向け」の種類をそろえています。特徴は①安心な原料を徹底した品質管理、②便利な冷凍食材が充実、③使い方が自由な「素材型」、④幼児が食べやすい大きさ&味付けとなっています。現在宅配では、必要な時にいつでも購入できるよう「いつでもめーむ」の2ページ目に掲載し、毎週注文が可能です。店舗では2021年3月現在52店舗で品揃えています。

またコープこうべネットでは「きらきらステップ」の商品を活用したレシピを定期的にインスタグラムで発信して忙しいママとパパの子育てを応援しています。

ユニセフ子どもスマホサミット in神戸

2020年1月、「ネット依存」をテーマに、中高生自身がスマホやインターネットの問題点について考えて自由に話し合い、大人も参加して意見交換を活発に行いながら、国・自治体・先生・親・企業・自分たちへの提言をまとめて発表しました(その後、全国5都市の代表の子どもたちが全国サミットでまとめた提言が「国連子どもの権利委員会」へ提出されました)。



グループごとに提言を発表する生徒たち

核兵器廃絶をもとめて

被爆者の「生きている間に、核兵器のない世界を」の願いを受け、2017年から集中的に取り組んだ「ヒバクシャ国際署名」を2020年12月末に国連本部に提出しました。11月、この署名のキャンペーンリーダーを務めた、林田光弘さんをお招きして学習会「核兵器のない未来のために」を開催。核兵器の現状を理解し、何をすればいいのかを考えました。また、アメリカ合衆国ネバダ州で行った「臨界前核実験」に対して、核廃絶に向けた核軍縮に真摯に取り組むことを強く要請しました。



平和へのメッセージが寄せられた横断幕を
組合員有志でつくりました

発達障がい体験講座を 各地で開催

NPO法人そらしど(神戸市)の「そらしどキャラバン隊」は障がいのある子どもを持つ保護者がメンバーとなり発達障害体験講座を各地で開催しています。2020年6月、神戸市北区社会福祉協議会と共催で、体験講座を開催しました。

また2020年9月、コープサークル「発達障がいについて考える会こはく」(豊岡市)が、コープデイズ豊岡にて、大人の発達障がいに関心のある方を対象に、敏感すぎたり鈍すぎる感覚を疑似体験する講座を開催しました。体験することで「発達障がい」を理解し、障がいをそのまま受け入れる社会やその人らしく暮らせる地域を目指すこれら地域団体の取り組みを支援しています。



感覚の疑似体験講座

DVを知る学習会を開催

当事者だけの問題と捉えられがちなDV(身体的・精神的・経済的・性的暴力)。それを日常的に見聞きする子どもの成長に与えるダメージは深刻で、一人でも多くの人が日常に潜むDVや児童虐待に気づき、自分に引き寄せて考え「だれもがのびやかに暮らせる社会」につなげることが求められています。

2021年3月、NPO法人女性と子ども支援センターウイメンズネット・こうべの正井禮子さん、三野敬子さんを講師に迎え、DVを知るためのオンライン学習会を開催。寸劇を交えた講師の話から、DVに該当する事例や、悩んでいる人への対応方法などを学び、DVへの理解を深めるきっかけとなりました。

平和を考える

ユニセフ写真パネル展

兵庫県ユニセフ協会では、困難な状況にある世界の子どもたちの現状をより多くの人たちに伝え、私たちの「当たり前」を考えるきっかけとして、写真パネル展を年間4回開催しました。



現地で使われている支援物資も一緒に展示

国際理解講座

兵庫県ユニセフ協会では、世界の「今」をまず知ることから始めるきっかけとして、毎年、国際理解講座を開催。2020年度も4回開催し、世界中で様々な活動をされている多彩な講師から貴重な体験や情報をお聞きしました。



サテライト会場のひとつ、協同学苑からもオンラインで参加

「絵本」で「平和」を 「未来」につなぐプロジェクト

不安定な世界情勢の中、分断や閉塞感が感じられ、明るい未来が見えにくくなっています。このような状況の中、2020年11月、絵本を通じて、子どもたちに、平和への思いと未来への希望を育むプロジェクトを始動しました。2021年4月からプロジェクトのひとつとして、おすすめ絵本を公募する「あなたのおすすめ絵本！教えてください」をスタート。紹介された絵本をリストアップし、地域の団体や施設などに寄贈します。



各店舗でご案内

ユニセフシアター

2020年9月、兵庫県ユニセフ協会では、パレスチナとイスラエルに暮らす子どもたちのドキュメンタリー映画「プロミス」の上映会を開催。京都大学大学院人間・環境学研究科の岡真理教授に、詳しく内容を解説していただきました。映画では、全く違う社会環境・政治形態の中で共に暮らす子どもたちが、交流の機会を得て考え方が変わっていく様子が描かれ、長年解決の道が見えないパレスチナ情勢の根底にある問題について考えるきっかけとなりました。



「対話は対等な者の間でしか成立しない」と語る岡真理教授